

島藩士の伊知地利雅開拓使主典が赴任し、本格採鉱にあたった。また、当時、1872年に商人ケプロンが転石を示したことに始まるモイワ銅鉱という鉱山が存在した。しかし、モイワ銅鉱は1870年代に着手した三井物産に経営が移ったが、その後閉山している。

その後、漁業において主にニシンが盛んであったが、大正以降ニシンが減少を始め、昭和に入り不良となった。泊船入潤を竣工し、動力船を採用して不振後はスケソウダラへ転換を行った。

1909年には、泊村、盃村、興志内村、堀株村が合併をして、二級町村泊村となった。

戦後には、港の整備が行われ、アワビ移植事業も行われたが、昭和20年代から炭鉱の国家管理が廃止。保護政策も打ち切られた。1964年に芽沼炭鉱は108年の歴史に幕を下ろした。

その後、石炭に代わるエネルギーとして、北海道初の原子電力発電所が作られ、1987年に1号機の運転が、1999年には2号機、2009年には3号機が稼働を開始した。また、泊原子力発電所の隣接地には、風力発電所「ほりかつぶ発電所」も設置されている。

1.3 村木・村花

泊村の村木はサクラ、村花はエゾカシユリとなっている。サクラは町の公園樹、街路樹、公共施設の環境美化にも利用され、エゾカシユリは泊村の海岸によく見られ、6月から7月に開花する。大きさは15から20センチあり、大柄な花である。

図6 サクラ



出典：泊村 HP

図7 エゾスカシユリ



出典：泊村 HP

図3 芽沼炭鉱鉄道



出典：泊村 HP

図4 芽沼炭鉱のズリ山



出典：泊村 HP

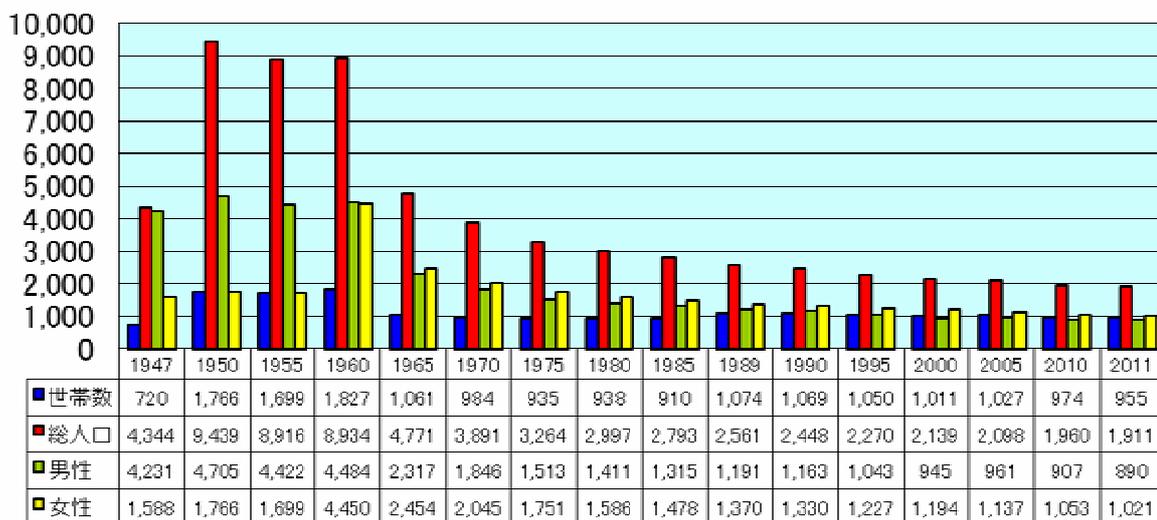
図5 ほりかつぶ発電所



出典：泊村 HP

2. 世帯・総人口推移

グラフ1 泊村の世帯・総人口の推移



出典：北海道庁 HP より著者作成

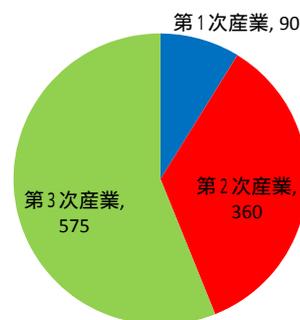
泊村の人口は年々減少傾向にあることが、グラフから読み取ることができる。1965 年になると人口が激減しているのは、1964 年の芽沼炭鉱の閉山が影響していると考えられる。それに加え、男性の数が 1947 年から 1955 年にかけて女性の数と比べると、約 3 倍に近くなっていることがわかる。これは、1965 年になると男性数が半数になっていることから炭鉱の働き手であったと推測ができる。また、泊村は助成制度として「泊でキマリ」という名の定住促進奨励事業を行っている。また、企業の誘致も積極的に行っている。

3. 産業

グラフ2 産業別人口 単位：人

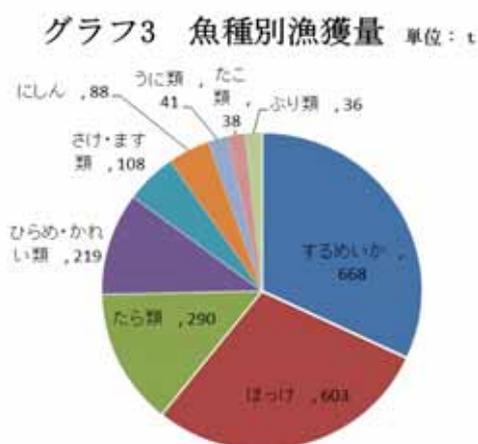
3.1 産業別人口

グラフ 2 から読み取れるように泊村は第 3 次産業に従事する人が多いことがわかる。また、泊村は漁業が盛んであり、第 1 次産業に従事する 90 人のうち 85 人が漁業を行っている。また、農業従事者は 3 人しかいない。



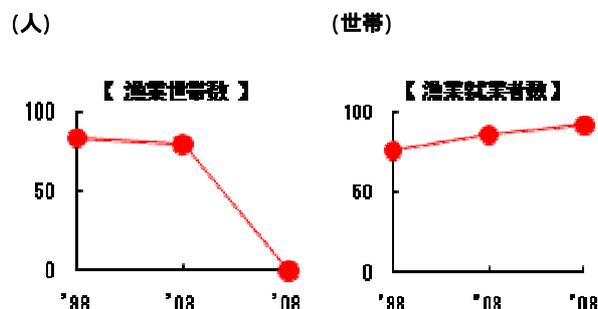
出典：泊村 HP より筆者作成

3.2 漁業



出典：わがマチ・わがムラ HP より筆者作成

グラフ4 漁業世帯数・漁業就業者数の推移



出典：わがマチ・わがムラ HP

グラフ3のように魚種別漁獲量では、すめいかの漁獲量が最も多い。泊村の特産品の1つに、干しイカがあるのもわかる。また、グラフ4のように泊村は漁業世帯数こそ減ってはいるが、漁業就業者は増えていることがわかる。また、古くからニシン漁が盛んな地域であるため、ニシン漁も行われている。

図8 甘づけウニ



出典：泊村 HP

図9 一夜干しイカ



出典：泊村 HP

3.3 特産品

泊村は漁業が盛んであるため、特産品も海産物が多い。特に、ウニとイカが有名であり、村の大切な特産品になっている。

4 泊村原子力発電所

泊村は北海道内唯一の原子力発電所を有している。また、泊村は発電所の固定資産税や国の電源開発交付金により、北海道内の市町村で唯一、地方交付税を受け取っていない不交付団体である。現在、この発電所では北海道の電力の約4割を供給しており、総面積は約135万平方メートル、東京ドーム29個分の面積となっている。1969年の建設決定当初は日本では珍しい内陸型原子力発電所として、隣接する共和町との境界付近に建設する予定であったため、名称も「共和・泊発電所」であった。しかし、その後の1978年に現在の泊村沿岸部に計画を変更し、現在の名称である「泊発電所」となった。1987年に1号機

図10 泊村原子力発電所



出典：ウィキペディア HP

の運転が開始され、1999年には2号機、2009年には3号機が稼働を開始した。しかし、2003年に2号機の冷却水が漏れ、運転停止したのを始めに2005年には山菜加工業者とそのアルバイトが不法侵入するという事件も起きた。この事件によって、テロ対策の警備の強化が呼びかけられた。2006年、2007年には2号機、3号機の原子炉建屋、原子炉補助建屋、作業員事務所の仮設トイレなどで出火した。2007年は放火の疑いがもたれている。2010年、2011年には作業員の被ばく事件なども発生した。

図 11 泊村原子力発電所

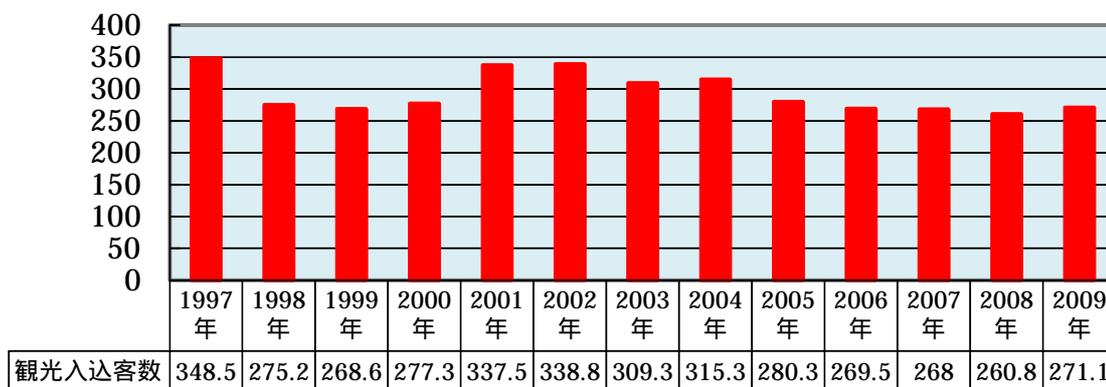


出典：泊村 HP

5. 観光

5.1 観光入込客数の推移

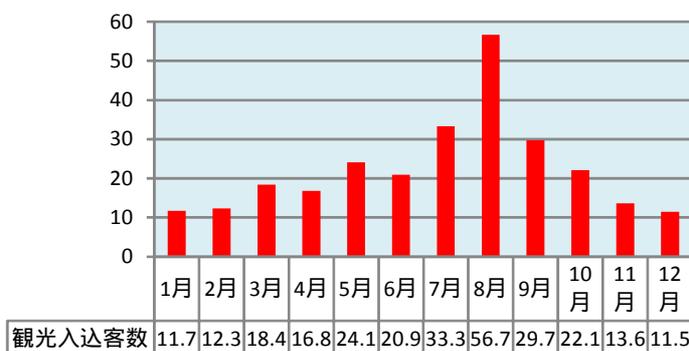
グラフ5 観光入込客数の推移 単位:千人



出典：北海道庁 HP より筆者作成

泊村の観光入込客数はこの13年間では平均で294000人であり、毎年増減はあるが、比較的一定の観光客が訪れていると考えることができる。また、月別の観光入込客数をみてもわかるように、8月期に最も観光客が訪れていることがわかる。これは弁天島などの海水浴場もあるため海水浴客が多く訪れ、また、泊村は自然豊

グラフ6 2009年度月別観光入込客数 単位:千人



出典：北海道庁 HP より筆者作成

かであり、日本海を望むことができる積丹半島に位置していること、「鯨御殿とまり」や「とまりカブトラインパーク」などの観光施設が充実していることも上げられる。また、北海道内で唯一の原子力発電所を有しているということからも、夏休みなどと重なる 8 月期に観光客がもっとも多くおとずれていると考えることができる。

5.2 観光

5.2.1 カブト岩

カブト岩には 2 つの伝説が残されている。1 つは、源義経の置いた兜が岩に変わったという伝説である。もう一つはアイヌの伝説である。アイヌの乙女が自分の命の次に大切な金の兜を洞窟に隠し、誰にも言わないまま亡くなり、いつしかその兜が岩に姿を変えて現れたという伝説がある。また、白髪の年老いた村長（むらおさ）が男性的なカブト岬に金の舟を、女性的な茂岩の弁天島に銀の船をそっと人知れず奉り、アイヌ民族の幸福を願ったという伝説も存在する。

5.2.2 弁天島

アイヌの美しい娘が、かなわぬ恋をかなえるために毎日通ったと言われている伝説の島。以来、絶えず、子宝、良縁を望む人がやってきたと言われている。夏には海水浴場ともなっている。

5.2.3 とまりん館

原子力や泊原子力発電所のしくみを説明している。また、科学展示や、地域展示も行っている。このとまりん館の電力の 6 から 7 割は、ほりかっぱ発電所で発電した電力を使っている。

5.2.4 鯨御殿とまり

北海道でニシン漁が始まったのは 300 年前と言われ、全盛期の明治には泊村には 50 を超える鯨番屋が建ち並んだ。この鯨御殿は明治 27 年に親方の川村慶次郎が親方と雇った漁夫たちが共同生活を送るために建てられた「旧川村家番屋」と大正 5 年に武井忠吉氏によって母屋と棟続きで建設された「旧武井邸客殿」である。また、ニシン漁の様子を物語る貴重な品々を多く展示している。

図 12 カブト岩



出典：潮香荘 HP

図 13 弁天島



出典：潮香荘 HP

図 14 とまりん館



出典：潮香荘 HP

図 15 鯨御殿



出典：泊村 HP

5.2.5 とまりカブトラインパーク

日本海、カブト岬、カブトラインが一望できる公園。公園内は自然を生かしたつくりで、パークゴルフ場、テニスコート、多目的広場やバーベキューハウスがある。

図 16 とまりカブトラインパーク 1



出典：泊村 HP

図 17 とまりカブトラインパーク 2



出典：泊村 HP

参照 HP

- ・ 泊村公式 HP：<http://www.vill.tomari.hokkaido.jp/main.html>
- ・ 泊村盃温泉潮香荘 HP：<http://www.sakazukionsen.net/index.html>
- ・ 北海道庁 HP：<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/>
- ・ 農林水産省 HP：<http://www.maff.go.jp/>
- ・ ほくでん HP：http://www.hepco.co.jp/ato_env_ene/atomic/atomic.html
- ・ 北海道ルーツの旅 HP：<http://tanpo.hp2.jp/index.htm>
- ・ ウィキペディア HP：<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B3%8A%E6%9D%91>